様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 ２０ 日現在

機関番号：１６１０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2017
課題番号：２６３８１２１４

研究課題名（和文）異学問・学校・地域との協働によるシビックプライドを育む小学校社会科地域学習の開発

研究課題名（英文）The Development of Primary Social Studies Lessons for Civic Pride through Interdisciplinary Cooperation with Schools and Regions

研究代表者
伊藤　直之（Ito, Naoyuki）

鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・准教授

研究者番号：２０３９０４５３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は，小学校社会科地域学習において，子どもにシビックプライドを育むための授業を開発することを目指したものである。その成果として，次のような授業の条件を明確化することができた。授業では地域のより良いあり方について子どもが自ら「考えてみる」ことに意義があること，「当事者意識」をくすぐること，さまざまな人々との交流を「きっかけ」にすることがさらに大事であること，教育においてその成果を性急に求めないこと，等々である。
今後の展望として，社会教育学との連携可能性が広がったことを挙げることができる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is developing the lesson plans for fostering pupils' civic pride in primary social studies. We could show the results of research as follows. It is important for pupils to think by themselves, to have a sense of ownership, to have opportunities to interact various people in their regions. Furthermore, it is important for teachers not to require pupils' immediate change. Finally, we could point out that this research obtains the possibility of interdisciplinary cooperation with social education as the discipline.

研究分野：教科教育学

キーワード：シビックプライド　小学校　社会科　地域学習

１．研究開始当初の背景

「シビックプライド (Civic Pride)」とは，主に工学の分野で用いられてきた考え方であり，市民が都市や地域に対して持つ自負と愛着である。近年では，工学のみならず，多方面で地域創生と関わって語られることが増えてきた。他方，小学校学習指導要領の社会科では，「公民的資質の基礎」や「地域社会の一員としての自覚」を育むことを目標としている。両者は非常に近い考え方である。

小学校社会科，とくにその導入である地域学習における学習内容は，日常生活に根差した経験主義的性格の色濃いものである反面，その学問的裏付けは非常に少ない。初期社会科に対する批判と同様に，依然として「はいまわる社会科」にとどまっている。学問的見解や閉ざされた価値の注入に陥ることなく，子どもが自ら関心を持ち，地元地域に対する関心事項を追求していくなかで，いかに学問的裏付けを担保していくかが課題であった。

２．研究の目的

公教育のなかで，最初に子どものシビックプライド育成に意図的計画的に関わる場面は，小学校である。そこで，研究代表者らは，教育目標としてのシビックプライドを，「市民が地域社会や環境に対して持つ自負や愛着，そして，それらをより良くする能動的な参加の精神」と定め，その基礎となる小学校における地域学習プログラムの開発と実践を試みることにした。

３．研究の方法

本研究は次のような３つのアプローチをとっている。１つ目は、教科教育学を専門とする研究代表者と、環境工学、地域経済学を専門とする研究分担者からなる異学問の協同研究体制を構築し、各学問特有の問題意識や方法を尊重しつつ、学問間で共有できることを探っていくという学際的アプローチ。２つ目は、シビックプライド思想の源流であるヨーロッパにおいて識者へのインタビューや学校訪問を通して我が国との相違を探る比較考察的アプローチ。３つ目は、研究代表者および分担者がそれぞれ所属する研究機関の近隣地域における小学校と連携し、教育実践の創造・実行・反省に関与するという実践的アプローチである。

４．研究成果

（１）１年目

平成 26 年度は，研究代表者と２名の研究分担者からなる研究体制の構築と，３カ年にわたる研究計画に関する検討を中心に行った。第１回研究協議は，佐賀大学経済学部で行い，代表者の専攻する社会科教育学からのアプローチ，分担者の専攻する社会環境工学，地域経済学からのアプローチとして，各々がどのような形で小学校段階の社会認識教育に貢献できるかを議論した。

第２回研究協議は，熊本大学政策創造研究教育センターで行い，社会科教育学の理論から小学校段階の社会認識教育の特徴と課題を，問題解決学習の典型例を用いて指摘した。また，社会環境工学からのアプローチとして，熊本市内の小学校における総合的な学習の時間での地域の水資源に視点を当てた先行的実践を，地域経済学からのアプローチとして，佐賀県小城市の小学校における地域の社会施設の利活用をめぐるワークショップ型の実践を，それぞれ報告・確認した。そして，熊本市内の小学校教諭３名と懇談の場を設け，小学校教育におけるシビックプライドのイメージや可能性，大学研究者や地域社会との連携可能性について，学校現場からの現状認識や要望を伺った。これらの初年度の成果を，2015 年 3 月に日本地理学会春季学術大会（日本大学文理学部）において発表し，併せて，その反省として第３回研究協議を行い，次年度への課題と展望を集約した。

（２）２年目

平成27年度は，研究代表者（社会科教育学）と２名の研究分担者（社会環境工学・地域経済学）が，それぞれの活動する徳島，熊本，佐賀各県内において，本研究課題に関わる小学校との連携，教育実践の企画・推進に従事するとともに，シビックプライド思想の中心的発信源であるヨーロッパにおいて資料収集および授業見学・インタビューを実施した。

社会科教育学からのアプローチとしては，徳島市内の小学校の第4学年社会科地域学習において，徳島市内とは対照的な山間地域における伝統文化の継承をめぐる葛藤を題材にして，徳島県民としての意識を揺さぶる授業実践の企画・実行・反省を支援した。

社会環境工学からのアプローチとしては，熊本市内の小学校における総合的な学習の時間での地域の水資源に視点を当てた実践の修正・発展を支援した。

地域経済学からのアプローチとしては，佐賀県小城市の小学校において，フットパスづくりを通して，地域のよさを再発見するための授業実践を，行政の協力も得ながら，推進した。

また，海外調査として，9月にフランスおよびイギリスを訪問した。パリ市内では地域住

民および学識者に対して，シビックプライド思想に関する意識と，これまでに受けてきた教育との関わりについてインタビューを行った。イギリスでは，初等地理教育の専門家であるオックスフォード・ブルックス大学名誉教授Simon Catling氏の協力を得て，オックスフォード郊外の初等学校を訪問し，当学校教員へのインタビューと，Humanitiesとよばれる合科型授業の視察を行った。

これらの成果を，2016年3月に日本地理学会春季学術大会（早稲田大学）と，2016 AAG Annual Meeting(Hilton San Francisco Union Square)において，それぞれ発表した。

（３）３年目

平成28年度は，研究代表者および分担者が，引き続き，研究打合せや調査を重ねながら，所属研究機関近隣地域におけるシビックプライド教育実践の構想・開発に取り組んだ。同年5月の第1回研究委員会と9月の第2回研究委員会では，シビックプライドと関連する研究分野として，新たに社会教育学（生涯教育）の研究者らと意見交換を行い，学校外における教育との連携可能性について知見を得ることができた。また，12月には英国において地域調査学習を支援する事業を展開しているJohn Widdowson氏に聞き取り調査を実施し，フィールドワークを通して地域の在り方を考えさせる教育論について示唆を得た。そして，教科教育における取り組みとしては，徳島県内における小学校社会科授業実践の支援という形で，「ふるさと納税」を題材に，その制度の在り方について議論をしながら，シビックプライド教育と社会的な見方・考え方を培う社会科教育の両立を模索した。

それらと併せて，本研究課題の3カ年の期間に取り組んだ教育実践の成果発表を試みた。2016年度日本地理教育学会第66回大会において，「フットパスコースづくりを活用した地域学習」という題目の下，佐賀県内の小学校における取り組みを事例にしながら，「まち自慢」をさがすという学習課題の設定，まちあるき（フィールドワーク），外部者からの賛同・賞賛というプロセスを通して，地域に対する誇りを醸成しようとした実践を提起し，批判ならびに改善意見を頂戴した。

なお，当初計画では，平成28年度中に，3カ年にわたる研究成果を取りまとめ，パンフレット形式で刊行する予定であったが，研究分担者（熊本大学）が同年4月に発生した熊本県内における地震の発生と震災復興関連の業務優先に対応するため，研究計画に遅延が生じた。そこで，補助事業期間延長を申請し，平成29年度中の計画完了を目指すこととした。

（４）４年目

平成29年度は，これまでの研究の継続とともに、最終年度の取り組みとして、研究成果を社会に還元することに努めた。

研究代表者の伊藤は，徳島県内の小学校における，価値判断場面の設定や他の児童と吟味する活動を通して，徳島に対するふるさと意識の間接的な涵養をめざす授業実践に際して，教材開発や学習指導における助言を行った。この成果は，２０１８年３月に東京学芸大学で開催された日本地理学会春季学術大会において発表した。

研究分担者の田中と戸田は，昨年度までの熊本県内および佐賀県内の小学校や行政と連携したワークショップ型実践やフットパス実践などの意義と課題について地域社会に発信するため，２０１７年９月９日に熊本大学工学部百周年記念館において，平成２９年度熊本大学政創研政策フォーラム（私がみんなと育てる「ふるさと」：地域・学校・家庭が連携したシビックプライド教育）を開催し，その様子を下掲のパンフレットにまとめた。

写真１　フォーラムの様子

写真２　成果報告パンフレット

４カ年（１年延長含む）にわたる本研究の成果として，より良いまちづくりの仕方やあり方については，参会者が自ら「考えてみる」ことに意義があるのであり，企画側（教える側）があらかじめ望ましい答えを用意すべきではないこと，自分たちがより良いまちづくりに関与しているという「当事者意識」をくすぐること，一人で考えることも大事だが，さまざまな人々との交流を「きっかけ」にすることがさらに大事であること，などの理論面での合意のほか，留意すべきこととして，教育においてその成果を性急に求めないことが重要であることなどの反省点を得ることができた。

今後の展望として，学校外の教育を研究対

象とする社会教育学との連携可能性が広がったことを挙げることができる。さらなる発展的研究の枠組みとしたい。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計７件）

① 伊藤直之「子どものシビックプライドを醸成する地域学習についての考察」『日本地理学会発表要旨集』第 93 巻，2018 年，p.316．査読無。

② 伊藤直之「シビックプライドを醸成する教育」徳島県教育会『徳島教育』第 1174 巻，2017 年，pp.6-8．査読無。

③ 伊藤直之，戸田順一郎，田中尚人，萩尾寿孝「フットパスコースづくりを活用した地域学習―小学校におけるシビックプライドの涵養をめざして―」『2016年度日本地理教育学会第66回大会発表要旨集』第66巻，2016年，p.17．査読無。

④ 伊藤直之，田中尚人，戸田順一郎「シビックプライドを育む小学校地域学習プログラムの開発と実践（１）～我が国の社会科と英国のHumanitiesの比較考察～」『日本地理学会発表要旨集』第89巻，2016年，p.311．査読無。

⑤ 戸田順一郎，田中尚人，伊藤直之「シビックプライドを育む小学校地域学習プログラムの開発と実践（２）～佐賀県小城市立牛津小学校における取り組みを中心に～」『日本地理学会発表要旨集』第89巻，2016年，p.312．査読無。

⑥ 伊藤直之，田中尚人，戸田順一郎「異分野協働を通してシビックプライドを育むための小学校社会科地域学習に関する基礎的考察」『日本地理学会発表要旨集』第 87 巻，2015 年，p.341．査読無。

⑦ 伊藤直之「社会科の分岐点～社会科再編の契機～」明治図書『社会科教育』665 号，2014 年，p.101．査読無。

〔学会発表〕（計６件）

① 伊藤直之「子どものシビックプライドを醸成する地域学習についての考察」2018 年日本地理学会春季学術大会，2018 年 3 月 22 日，東京学芸大学。

② 伊藤直之，戸田順一郎，田中尚人，萩尾寿孝「フットパスコースづくりを活用した地域学習―小学校におけるシビックプライドの涵養をめざして―」2016 年度日本地理教育学会第 66 回大会，2016 年 8 月 8 日，慶應義塾大学。

③ Naoyuki ITO, Powerful Disciplinary Knowledge in the Japanese Social Studies Lessons, 2016 AAG Annual Meeting, 2016.03.31, Hilton San Francisco Union Square, USA.

④ 戸田順一郎，田中尚人，伊藤直之「シビックプライドを育む小学校地域学習プログラムの開発と実践（２）～佐賀県小城市立牛津小学校における取り組みを中心に～」2016 年日本地理学会春季学術大会，2016 年 3 月 21 日～22 日，早稲田大学。

⑤ 伊藤直之，田中尚人，戸田順一郎「シビックプライドを育む小学校地域学習プログラムの開発と実践（１）～我が国の社会科と英国のHumanitiesの比較考察～」2016年日本地理学会春季学術大会，2016年3月21日～22日，早稲田大学。

⑥ 伊藤直之，田中尚人，戸田順一郎「異分野協働を通してシビックプライドを育むための小学校社会科地域学習に関する基礎的考察」2015 年日本地理学会春季学術大会，2015 年 3 月 28 日～29 日，日本大学文理学部。

〔図書〕（計１件）

① 原田智仁，永田忠道，佐藤章浩，伊藤直之，吉岡壮吉ほか（分担執筆）『新社会科授業づくりハンドブック小学校編』明治図書，2015 年，255p.

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：

権利者：
種類：
番号：
出願年：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等　なし

６．研究組織

(1)研究代表者
伊藤　直之（ITO, Naoyuki）
鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・准教授
研究者番号：２０３９０４５３

(2)研究分担者
田中　尚人（TANAKA, Naoto）
熊本大学・熊本創生推進機構・准教授
研究者番号：６０３１１７４２

戸田　順一郎（TODA, Junichiro）
佐賀大学・経済学部・准教授
研究者番号：８０４３７８０５

(3)連携研究者
なし

(4)研究協力者
堀尾　和美(HORIO, Kazumi)
萩尾　寿孝(HAGIO, Toshitaka)
中尾　梓(NAKAO, Azusa)